

環境調査結果のお知らせ

令和元年7月4日午前11時から野見・須崎湾の環境調査を行いましたので、結果をお知らせします。

湾内の環境は、水温23.0~24.6℃、塩分12.2~34.0、溶存酸素量4.5~7.8mg/lでした。前回調査時(R1.6.20)と比較して、水温は表層で0.1℃下降し、2m層から10m層で0.2~0.8℃上昇しました。塩分は表層から10m層で0.6~3.6下降しました。溶存酸素量は全層で1.2~2.1mg/l減少しました。

透明度は3.5~4.0mでした。

検鏡の結果、有害種のカレニア・ミキモトイが最高で49cells/ml、コクロディニウム・ポリクリコイデスが最高で2cells/ml、ケラチウム属が最高で1cell/ml確認されました。

海や養殖魚の状態に変化や不安を感じた時は、よく洗ったペットボトルなどに海水を採取して、中央漁業指導所または水産試験場までご連絡ください。

表1 水温(℃)

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	漁場平均※	前回調査(R1.6.20)		市場前
						漁場平均※	前回との差 今回-前回	
0m	24.6	24.4	24.3	23.0	24.4	24.5	▲ 0.1	22.1
2m	24.6	24.3	24.3	23.9	24.4	24.2	0.2	23.8
5m	24.3	24.0	24.2	24.0	24.2	23.6	0.6	24.1
10m	24.4	23.8	24.0	23.8	24.1	23.3	0.8	-
B-1m	-	-	-	-	-	22.8	-	23.9

表2 塩分

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	漁場平均※	前回調査(R1.6.20)		市場前
						漁場平均※	前回との差 今回-前回	
0m	30.0	29.5	28.8	12.2	29.4	33.0	▲ 3.6	12.0
2m	31.1	31.8	31.5	30.7	31.5	33.3	▲ 1.8	28.7
5m	32.6	33.2	32.8	32.6	32.9	33.8	▲ 0.9	32.6
10m	33.7	34.0	33.8	34.0	33.8	34.4	▲ 0.6	-
B-1m	-	-	-	-	-	34.5	-	33.7

表3 溶存酸素量(mg/l)

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	漁場平均※	前回調査(R1.6.20)		市場前
						漁場平均※	前回との差 今回-前回	
0m	6.3	7.6	7.8	7.4	7.2	8.4	▲ 1.2	8.0
2m	6.1	7.1	6.9	6.1	6.7	8.2	▲ 1.5	7.1
5m	5.3	5.4	6.3	6.3	5.7	7.6	▲ 1.9	6.2
10m	4.5	6.0	5.3	5.1	5.3	7.4	▲ 2.1	-
B-1m	-	-	-	-	-	7.0	-	5.5

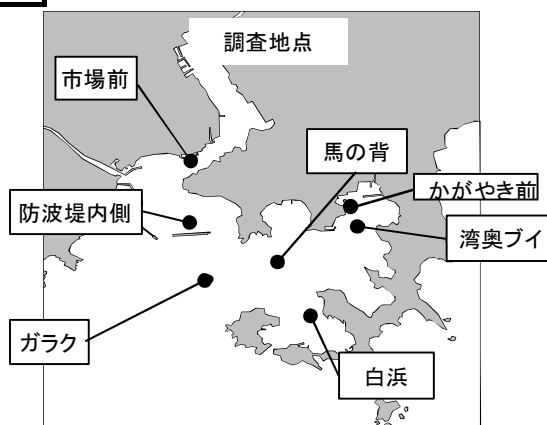
※湾奥ブイ・馬の背・ガラクの平均値  
※計測器故障のため、B-1mは欠測。

表4 水深・透明度(m)

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	市場前
水深	17.0	24.5	15.6	15.8	10.6
透明度	4.0	3.5	4.0	3.5	1.5
前回(6/20)	5.0	4.0	3.5	4.5	2.5

表5 プランクトン(cells/ml)

調査地点	水深	カレニア・ミキモトイ	シャットネラ属	コクロディニウム・ポリクリコイデス	ケラチウム属	珪藻類
		湾奥ブイ	0m	2	0	0
	2m	0	0	0	0	170
	5m	11	0	0	0	80
馬の背	0m	7	0	0	0	100
	2m	18	0	0	0	100
	5m	11	0	0	1	120
ガラク	0m	4	0	0	0	1,600
	2m	0	0	0	0	150
	5m	5	0	0	0	100
津波防波堤内側	0m	0	0	0	0	120
	2m	3	0	0	0	350
	5m	38	0	2	0	500
市場前	0m	0	0	0	0	350
	2m	23	0	0	0	200
	5m	1	0	0	0	250
白浜	0m	2	0	0	0	1200
	2m	4	0	0	0	220
	5m	49	0	0	0	140
かがやき前	0m	13	0	0	0	150



**漁業被害が想定される細胞密度**

- ・カレニア・ミキモトイ:  
数百~数千cells/ml(魚類のへい死)
- ・シャットネラ属:  
10cells/ml~(魚類のへい死)
- ・コクロディニウム・ポリクリコイデス:  
数百~1,000cells/ml(魚類のへい死)
- ・ケラチウム属:  
500cells/ml~(餌食いの低下)